

2026 年 9 月 21 日

【SUPER GT 第 6 戦 /スポーツランド SUGO レポート】
WedsSport BANDO H GR Supra が 6 位獲得。
リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R がタイヤ無交換で 2 位表彰台



SUPER GT 第 6 戦がスポーツランド SUGO で開催。GT500 クラスでヨコハマタイヤを装着する WedsSport BANDO H GR Supra(国本雄資選手／阪口晴南選手)が予選 3 位を獲得し、決勝レースでも力強い走りで今季ベストリザルトとなる 6 位入賞を果たした。また GT300 クラスでは、ランキングトップで 98kg のサクセスウェイトを背負うリアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R (ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手／木村偉織選手) が予選からの大幅ポジションアップを成功させて 2 位表彰台を獲得した。

台風 25 号が接近していた週末の日本列島。スポーツランド SUGO がある宮城県もその影響で不安定な天気が予想された。そんななかで迎えた公式予選は幸いにもドライコンディションで行われ、WedsSport BANDO H GR Supra は国本選手がまずは Q1 のアタックへと向かった。実は、公式練習ではちょっとしたアクシデントに見舞われ予選に向けて万全な状態ではなかったという国本選手。トップに対して 0.913 秒とやや差を付けられたものの 8 位に入り、Q1 を突破。Q2 に向けて阪口選手にバトンを渡すことに成功した。「もう少し直したいところがあった」という国本選手のフィードバックで、チームはセットアップを変更したが、これが奏功。阪口選手はさらにマシンの速さを引き出し、3 番手タイムをマークする。「国本選手のフィードバックでタイヤの性能を引き出す非常にいいクルマだったのですが、自分が合わせられなかった」と予選結果には悔しい表情

を浮かべたが、それだけポテンシャルの高さに自信を持っているようで、決勝に向けても期待を寄せていた。

決勝日の SUGO は朝から雨が降りウェットコンディションに。ただ午後には雨がやみ、20 分間のウォームアップセッションで走行ラインは乾いてきていた。全車がドライタイヤを装着し、セーフティカー(SC)先導で 84 周のレースがスタート。5 周目に入るところで SC が隊列を離れると、WedsSport BANDO H GR Supra の国本選手は 3 位をキープ。いったんは 2 位とのギャップが広がりかけたが、周回が進むにつれてじわじわとその差を削り取っていき、17 周目の馬の背コーナーでオーバーテイクに成功した。さらにトップの車両にも迫ったが、このタイミングで GT300 車両と GT500 車両が絡むアクシデントが発生し、SC が入ることに。いったん休戦となったトップ争いは、32 周目のリスタートで再びヒートアップ。翌周には背後にまで迫ったが、ここでトップの車両がピットに向かったため、WedsSport BANDO H GR Supra は暫定ながら GT500 のトップに躍り出た。その後、37 周を終えてタイヤ交換とドライバー交代を行うと、アウトラップの間に数台の先行を許してしまい、再び追い上げの戦いに。阪口選手は 47 周というロングステイントの中でポジションを上げていき、6 位でフィニッシュ。今季ベストリザルトで 3 度目のポイント獲得となった。



17 台がヨコハマタイヤを装着する GT300 クラスでは、予選が 19 位と苦しい位置になったリアライズ日産メカニクチャレンジ GT-R がタイヤ無交換作戦を敢行し、全車がピット作業を終えた段階で堂々のトップに躍り出た。難しい後半ステイントを任されたのはベテランのオリベira選手。終盤はタイヤの消耗も進み厳しい状況となったが、それでも大きくペースを乱すことなくポジションを堅持していた。しかし、68 周目に GT500 車両

を先行させるタイミングでやや接触がありコースオフ。これでライバルに首位を譲ってしまったが、2 位でコースに復帰すると残り数周を懸命に走り切り、表彰台を獲得した。シリーズを争う上位勢の結果が振るわなかったことで、リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R は 2 位とのポイント差を広げてランキングトップを堅持している。



■ 国本雄資選手 (WedsSport BANDO H GR Supra)

【今回の成績 : GT500 クラス 6 位】

前を走るクルマよりも自分の方がペースがあるように感じたのでチャンスだと思っていましたが、SC でそのチャンスがなくなってしまいました。タイヤのウォームアップが周りに対してあまり良くないことは分かっていたので、セーフティカーでギャップがなくなってしまったのが全てかなと思います。可能性のある数少ないレースだったので、非常に悔しいです。

■ 阪口晴南選手 (WedsSport BANDO H GR Supra)

【今回の成績 : GT500 クラス 6 位】

SC で後ろとのギャップが詰まってしまった関係で、結果的にアンダーカットもオーバーカットも受けてしまいました。国本選手のステイントが本当に素晴らしかったので、あの SC は本当に痛かったです。僕のステイントの、終盤のレースペースは良く、上位とのギャップを詰められたのは良かったです。前でゴールしないといけませんから、速さを活かせず悔しいです。次戦はライバルのウェイトが最大になるレースなので、そこでしっかりと成果を残し、もてぎラウンドにつなげられるような 1 戦にしたいです。

■ ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手 (リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R)

【今回の成績 : GT300 クラス 2 位】

最初の 20～25 週のペースは良かったのですが、最後はタイヤのマネジメントがシビアになっていき、ペースを抑える必要がありました。もしレースがあと 2～3 周長かったら走り切れなかったかもしれない。タイヤ無交換作戦だし、それぐらい今日はギリギリのレースでした。チームは素晴らしい戦略を採ってくれたし、メカニックもピットストップで素晴らしい仕事をしてくれた結果。今日はチーム一丸で戦い、すべてをうまくやり遂げました。

■ 木村偉織選手（リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R）

【今回の成績：GT300 クラス 2 位】

僕は去年、別のチームで何回も無交換作戦にチャレンジし成功させてきました。自分としては自信のある作戦でしたし、前半スティントを走った時点で手ごたえも感じました。チームから状況を聞かれた時も「大丈夫だと思う」と返したのですが、それをチームも信じてくれて、良かったです。自分たちができるベストを出し尽くして手に入れた 2 位は、非常に価値の大きい 2 位です。とてもうれしいです。

■ 中崎敬介

〔横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー〕
GT500 のタイヤは SUGO でのテストを実施しコンパウンドを合わせて持ち込んだ仕様でしたが、決勝日の路温が想定よりはやや低めだったこともありウォームアップには苦しかったです。次戦 AP に向けて仕様を練り直したいと思います。

SUGO はタイヤの視点では摩耗に厳しいサーキットですが、それでも予選下位からのジャンプアップを狙う 56 号車の無交換作戦に合意できる自信はありました。二人のドライバーの技術とチームのピット作業の組み立てなどでタイヤのポテンシャルを活かしていただいたと思います。